

会員だより

『人生会議』って

何ですか？

地域医療の医師である難波繁伸先生を講師としてお迎えし、高槻現代劇場でシニアクラブ連合会主催の講演会に参加しました。

人生会議とは、認知症などにより、意思決定が難しくなった時のために、あらかじめ受けたい医療や介護、延命処置などについて家族や医療職、介護職と話し合っておく「アドバンス・ケア・プランニング通称 (ACP: Advance Care Planning)」のこと



人生会議は
家族と共に考える

ですが、なじみがないのが実情です。

厚生労働省は、ACPを「人生会議」と名前付け、国民への普及を図っています。

2017年12月に実施した「人生の最終段階における医療に関する意識調査」では、これまで考えたことがある人は、一般国民では20.3%、これに対して介護職員は、79.9%が考えたこと

とがあると回答しています。

しかし、『人生の最終段階の医療』について、話し合っていない方が多く、その理由を尋ねると、「話し合うきっかけがなかった」と難しい問題であることも分かります。特に日本人は、子どもたちに依存する傾向も外国より強い気がいたします。



医療・介護・福祉の専門職の方とも相談しましょう

会報「VG 槻輪だより」 全面複写可

VG 槻輪の会報「VG 槻輪だより」は、高槻市の全図書館（5館）で、創刊号から自由に閲覧できるようにしています。

時々図書館より、会報「VG 槻輪だより」のコピーをとりたいと閲覧者からの要求がありその都度連絡を頂きます。

今年に入ってからも連絡あり、1月20日に全部コピーしたいとの方もいました。

会報「VG 槻輪だより」は、VG 槻輪のホームページに電子データでA4サイズの.pdf データを簡単に取り出せ、印刷し易い様に編集しています。

会報「VG 槻輪だより」は、原稿作成時及び発行前に、特に「わがまち紹介」活動の訪問先には必ずこの件を伝え、原稿のチェックと印刷前のチェックとホームページ掲載の了解を得て発行しています。

今回、高槻市中央図書館の会報の表紙に右下写真の様に「全面複写可」のラベルを張って頂きました。

勿論複写する方は、図書館にコピーの「要求者氏名」と「どこをコピーしたか」の書面提出は必要です。

VG 槻輪 会長
大岡 成一



『上り坂・下り坂・まさか』ですが、この「まさか」



もしもの坂

私の姑は要介護5で7年間寝たきりでした。それまでは口では、「延命治療はやめて！」と言っていました。がきつちりと書いて残さなかつたため、最後は「皆がいいように」と言いつつ胃ろうした結果、その後の7年間、好きな羊羹も口にできず、いきながらえましたが、私はとても複雑な気持ちでおりました。

私には、その状況に自分の生き方は、きつちり決めておかなければならないと、書面にて残すことにしました。自分にとつても家族にとつても触れたくないかもしれないが、決めておくに越したことはないと思ひ、姑が入院してから2週間目に、エンディングノートとして、20年前に書きました。今回、「人生会議」の講演に参加して、更に書き直しました。

難波先生は、世間では人生には、3つの坂があると言われています。家族と医療・介護者と一緒に繰り返して話し合い、共有する取り組みを、ACPの名称で厚生労働省は広めようとしております。

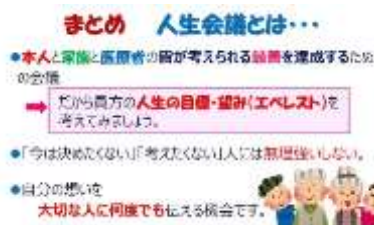


多職種チームであなたをサポートします

先日、「VG 槻輪」の会員で96歳のMさんのことをお聞きして感動しました。ご自分で納得できる施設

「ああしておけば良かった。本人に聞いておけば良かった」などよく聞くことですが、中には訴訟までいくケースもあるようです。

厚生労働省のホームページには、ゼロから始める人生会議として、進め方考え方などが丁寧に載っています。



何度も変更しても問題はありませぬ。皆様もぜひお考えいただければと思います。自分の人生は自分のもので、大切に生き抜くためにもぜひ、参考にしてください。

記・奥田 美智子